僕がいま、この場にいる全員を殺したら、世間はどう思うだろうか。そうしたら当然、世間は注目して、僕は一生後ろ指をさされて生きることになるだろう。では、この場にいる数と同様の犬猫が殺処分されたら、世間はどう思うだろうか。

おととしの犬猫の殺処分数は、約４万匹。その殺処分された犬猫たちの骨が、産業廃棄物として処理されている。完全にペット業界は産業化してしまったのだ。

僕は犬を２匹飼っているが、僕にとって犬は、家族だ。でも業界では、商品・生産物として扱われている。それを物語っているのが、ペットショップで売れ残っている子たちの扱いだ。ふつうは、もとのブリーダーに戻されることが多いが、最近は、保健所にもっていき、殺処分されるか、実験動物にされてしまうことが多い。ひどいペットショップだと、売れ残った子犬、子猫を生きたままごみ袋にいれ、冷蔵庫に入れて殺す場合もある。これが、ペットショップの実態だ。果たして、ここに命に対する責任はあるのだろうか。

政府は、殺処分を少しでも減らすために、法律を改正した。それは、ペット関係の業者が保健所に犬猫の引き取りを依頼した場合、それを拒否できる権利を保健所に持たせるというものだ。これで、売れ残った子たちが保健所に引き取ってもらうことが困難になった。そこで引き取り屋の存在が出てきた。引き取り屋は、売れ残った子を安値で買い取り、繁殖に用いる。そして、生まれた子を売って、収益を得ている。しかし、引き取り屋は犬猫を単なる道具として見ていて、命が軽視されていることに変わりはない。あまり、根本的な解決にはなっていないのかも知れない。

おとといしの、犬猫が保健所に引き取られた数は、約１０万匹。その中の、ほとんどが捨て犬、捨て猫だ。捨てる理由がまたひどい。その中から３つほどピックアップして僕の意見を述べさせてもらおう。

一つ目「大きくなりすぎた」これはペットショップで「小さくてかわいい」で買ってしまったのがみえみえだ。子犬や子猫ちいさくてかわいい。一目ぼれするのもわかる。でも人間の子供と同じようにいずれ必ずでかくなるのだ。そこまで予測することでこんなくだらない理由で捨てることもなくなるのではないだろうか。

二つ目「うるさい」飼い主のしつけ次第ではないのだろうか？犬はまず警戒心や恐怖心から吠える。それがだんだんと癖になり「吠え癖」になるのだ。僕の家の犬もインターホンに吠え癖がついてしまい、インターホンが鳴ると狂ったように吠え出す。それでもきちんと怒ればすこしは静かになる。怒ろうともせず見放すのは間違っているような気がする。

三つ目「子供が産まれすぎた」これは子猫が捨てられてしまう一番の原因だと思う。室内で飼っているならともかく、外への出入りが自由な猫の場合孕む可能性がものすごく高い。だから命を粗末にしないためにも必ず去勢するべきだ。お金は多少かかる。でもそれが飼い主としての責任なのではないだろうか。

これら三つにはある共通点がある。それは飼い主にとって理想外れだったことだ。こんなに大きくなるはずじゃ、もっと静かな子だと思っていた、こんなに生むと思わなかった。どれも犬猫たちに理想をおしつきすぎた結果だと思う。

捨て犬、捨て猫が後を絶たない理由は、飼う側の意識の問題だと思う。自分の子供が犬猫をほしがった場合、あなたはどうしますか？僕の父は、僕と妹が犬をほしがったとき、「ちゃんと面倒を見られるのか」と聞くのではなくて、父自身が命を育てることへの覚悟、責任が今どのくらい固まっているのか、そして、その覚悟が家族全員にないと、飼えないということを教えてくれた。そこから、命の見方が変わった。ペットを飼うということは、家族の生活スタイルが変わるということなのだ。だから、親は子供に命を育てる覚悟を伝えてあげることが大切だ。こどもはそれを聞いて、きちんと考える。

業界からしたら、犬猫たちは商品・生産物なのかもしれない。でも、その前に命を扱っている。そこには必ず責任が生じる。僕ら飼い主からしたら、家族なのだ。そこに責任があるのは当然だろう。僕らは生き続けている限り、ほかの生物の命の責任も背負わなければならない。